

事業活動実績報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための馬介在教育
2 実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和5年4月 日 ～ 令和6年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	戸外遊びで触れ合えるように、日中は遊び場の一角にある丸馬場へ放牧		
	(取組日) 令和5年4月 日 ～ 令和6年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	ほぼ毎日1～2時間程度、乗りたいと思った子が騎乗できるようにする。		
(取組日) 令和5年4月 日 ～ 令和6年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
ポニーの散歩。ほぼ毎日、散歩をしたいと思った子ができるようにしている。			
(取組日) 令和5年4月 日 ～ 令和6年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
ポニーの世話をする。4歳児が中心となり、グループごとに交代でウンチの掃除、ブラッシングを行う。			

3 取組概要	(取組日) 令和5年4月 日 ~ 令和6年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ <del>環境</del> ・ <del>言葉</del> ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための馬介在教育
2 事業概要	馬介在教育を通して、体験的な活動を行うほか、豊かな心を育む

計画時

3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 調教が施されているポニー3頭・馬飼育管理者・馬調教者・馬曳き手・安全に活動できるスペース ハンドラーは、園内に2名
--------	---

事業後

3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・人に対して学びの機会をもたらす重要な存在として馬を位置付けるためには、馬の適切な管理と調教は必要不可欠。 ・子どもと馬両方の心情や動きを読みとれる人がハンドラーとなることで、興味をもった子が自然と馬とかかわることを遮らずにすすめることができる。 ・活動スペースが明確になっていると、事故につながることなく事業を遂行することができる。 ・人材育成は重要であるが容易ではなく、課題となった。
-------------	---

計画時

4 事業のねらい	馬を幼児の間に介在させながら人と人との関係をよくしたり触ることによる安らぎを感じたりさせる。最終的には、心や身体の広い意味での健康を目指した活動とする。
----------	--

事業後

4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 幼児と馬とのかかわり方は様々である。積極的に触れ合ったり乗ったり世話をする子もいれば、遠くから見ている子もいる。馬に目が向くことで、個々に応じた当初のねらいを達成することができる。 無関心な子が関心をもつための工夫が必要。
-------------	--

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ●戸外遊びで触れ合えるように、日中は園児の遊び場の一角にある丸馬場へ放牧。(放牧時間は、天候により変える。)特に新学期は、保育室付近を散歩させることで、不安が強い子が触れ合うようにする。 ●ポニーに騎乗する。毎日1～2時間程度、乗りたいと思った子が騎乗できるようにしている。新学期、新入園児には積極的に誘うが無理やり乗せることはしない。 注)使うポニーは、人間生活との共生関係が確立されている。複数の馬を同時に使用する場合は、馬同士の相性にも留意する。 ●ポニーの散歩をする。毎日、散歩をしたいと思った子ができるようにしている ●ポニーの世話をする。4歳児が中心となり、グループごとに交代で毎日ウンチの掃除、ブラッシングを行う。
---------	--

事業後

5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・自分よりも大きい馬に恐怖を覚えることもあるが、その恐怖を乗り越えて馬とともに活動することは、自信や挑戦することへの勇気をもたらしている。 ・馬とかかわる中で、馬が要求していることを読み取り、それをかなえるための行動をする必要が生じる。世話だけでなく気持ちを読みとる経験は、園生活にもつながる比喩的な学びとなっている。 ・馬への親しみや信頼感を抱くことが継続的なかわりへの意欲を生み出し、教師が予想しなかった新たな活動へとつながったが、人員配置の問題から深めることができなかった。
-------------	--

計画時

6 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園児の馬への興味の度合いは様々である。長期的にはどの子にも効果が出るように工夫。</li> <li>●馬を介在させた教育活動を行うには、馬自身が健康であることが前提。</li> <li>●教員は、子どもの状況を理解し、子どもと馬のかかわりの架け橋となるように努める。</li> <li>●食べていい草の種類や形状、食べさせてはいけない草の種類や形状については管理を行う。</li> <li>●毎日何回も乗る子もいれば、遠くから見ているだけの子もいる。遠くから見ている子に対しては、離れた場所での馬とのかかわりを認める声掛けを忘れずにする。</li> <li>●よほどの理由がない限り、卒園までには一度はまたがるように促す。乗るのが怖い子や苦手な子は、無理に乗せることはしないが無関心にならないように配慮する。</li> </ul>
--------	---

事業後

6についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>自らの判断で、馬に乗ることを決め実行することは自信につながる。興味を示していない子への教職員の対応を再検討することで、興味関心を引き出すことができると思われる。高齢馬と園児がかかわる場面では、より深く気持ちを読み取ろうとしている姿があった。園児と高齢馬のかかわりをより深めるためにはどうするか課題となった。</p>
-------------	--

7 期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>馬のもつぬくもりや安らぎが好作用することで、触覚が発達 騎乗することで高さや温もりを感じ、振動やリズムに脳が刺激される ポニーにも色々な感情(嬉しい・怒る・眠い・お腹が空いた)があり、様々な形で表していることに気が付き、気持ちが通い合う喜びが生まれる 自尊心が高められる</p>
-------------------	---

事業後

7についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>当初期待した幼児の姿に加え、馬のもつぬくもりや安らぎが好作用することで、適度な感情表出ができるようになったり、仲間を思いやる優しさが深められ仲間と一緒に活動することを大切にするようになった。 幼児がもった疑問や発見に寄り添いながら深めることが不足していた。</p>
-------------	---

8 効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>以上のことから、馬は馬に関心を寄せた全ての園児に学びの機会をもたらす重要な存在であるということがわかった。今後は、子どもたちの感情の変化や学びの連続性に着目し深めていくことで、無関心な子も含めた全ての園児にとって充実した内容としていきたい。</p>
--------------	---